

# ほん・本・ブック (修練会)

公益財団法人豊島修練会 2016年9月24日号 (通算第11号)



## 子どものほん (子ども、小学生&中学生)

ヨシタケシンスケ「このあとどうしちやおう」ブロンズ新社 1400円

皆さんには、おじいちゃんやおばあちゃんがいますか？ この絵本は、おじいちゃんが、生きていたときに書いていたノートが見つかり、それを漫画と文で分かりやすく表したものです。むずかしいことを考えず、「おじいちゃんて、こういうことをかんがえていたのか」と思いながら読んでください。

そうしたら、おじいちゃんやおばあちゃんに対して、もっと優しくなるかもしれません。



## 大人の本 (パパ&ママ、ジジ&ババなど)



同上 (こどものほんと同じです)。これは、同居していたおじいさんが、表紙に「このあとどうしちやお」と書き残したノートを、絵本にしたものです。「このあとのよてい」「てんごくにいくときのかっこう」「うまれかわったらなりたいもの」「こんなかみさまにいてほしい」「てんごくってきっとこんなところ」「いじわるなアイツはきっとこんなじごくにいく」「みんなをみまっていこうほうほう」「みんなにつくってほしいきねんひん」、・・・などと続きます。

大人が読んでも考えさせられることが多いが、我が子と一緒にこの絵本を読み進めながら、色々話し合うと、「人間の生と死」や「家族」と言うことを考えるきっかけになるかもしれない。

## 学校の先生のブック (小学校・中学校の先生)

読売新聞社会部「貧困子どものSOSー記者が聞いた小さな叫び」中央公論者 1500円

子どもの貧困が話題になっています。日本の子供の貧困の割合は16% (6人に1人) で、世界でも高い方だそうです。

本書は、子どもの貧困が具体的にどのような状況で、子どもたちがどのようなことに困っているか、この状況をいかに食い止めたらよいものか、7人の記者が実際に取材してまとめたものである。

私が新米教師になりたての頃は、たいていの子供が貧困だったので、貧しくて困っていてもあまり気にせず、前向きに生活し、学習していたものである。しかし、今、担任している学級の「貧困で困っている子」は、16%と言う高い割合であるとはいえ、あとの84%の子供は困っていない子どもたちである。それだけに、「貧困で困っている子」の悩み、苦しみ、心の傷、将来への不安などは計り知れないものがある。

本書は、「心に傷を負った子供たち」「進路・進学への壁」「親の愛に恵まれずもがく」「母として迫られる人生の選択」「貧困の連鎖を止めるために」というテーマで、様々な実態と今後の方向性を示唆してくれる。学校として、学級担任としてやれることには難しさと限界はあるが、子どもの心に響き、支えることをしたいものである。

★備考★なお、話題提供のために本を紹介しているだけで、購読を勧めるものではありません。[成美教育文化会館]で検索すると、「かけはし」「メッセージ」「Q&A」をはじめ「一字荘」「至楽荘」「会館の会場貸出」など様々な情報が閲覧できます。ご利用ください。



